

# 連合救援ボランティアレポート

第 50 号  
2011 年 7 月 27 日

| 1

## 「復興への朝顔」すくすく成長中！



仙台拠点のボランティアは、この間、仙台市宮城野区の岡田地区で活動しています。先日、第 15 陣のメンバーが、作業中に美容院を営む住民の方から「復興の朝顔」をいただきました。いただいた朝顔は次のメンバーに引き継がれ、仙台拠点の日当たりのいい場所で、元気に育っています。

岡田地区では、地元の有志の方でつくる「がんばっぺ岡田の会」が手作りのポスターをつくり、地域に配布していて、ボランティア隊も 1 枚頂き、拠点に飾っています。岡田地区の復興に向けて、連合ボランティア隊も「がんばっぺ！」



■「復興への朝顔」とポスター。ポスターは地域のシンボルになっている三本松をモチーフに、松ぼっくり姿の子ども 3 人が描かれているとのこと。

## 活動レポート

### 宮 城

#### ●美里拠点

【7/26】東松島市牛網地区で側溝の泥出し作業を実施。

#### ●千厩拠点

【7/26】気仙沼市波路上（長磯）二本松で田んぼのガレキ撤去、漂着した海の家シャワー室などの撤去作業を実施。



■東松島での側溝作業の様子(26日)

### 福 島

#### ●福島拠点

【7/25】相馬班は回収した写真の洗浄作業、南相馬班は側溝の泥出し、新地班は民家の家財搬出、清掃作業を実施。

**現地から** 今週末で福島県内での活動がひと区切りとなることから、連合本部が活動地域のボランティアセンターを訪問しました。各ボランティアセンターからは、「連合には早い段階から来てもらい、一番状況の良くない場所で活動してもらったことに感謝する」「能率よく、組織立った取り組みに感謝する」など、連合への謝意を頂きました。

#### ●いわき拠点

【7/26】ボランティアセンター資材班業務、四倉地区で側溝の土砂撤去作業を実施。

**現地から** 作業後の側溝にはボラの群れが泳ぐようになり、近所の方が涙を流しながら「皆さんの地域で何かあったら、必ず駆けつけるから」と言ってくださいました。

## 参加者からの声 届きました

～元気を届け、元気をもらう ボランティア隊～

連合救援ボランティア第15陣として宮城・美里拠点に派遣された自動車総連・ダイハツ労連の高里健さんからのレポートが届きましたのでご紹介します。

連合の救援ボランティアへ参加させて頂き、意義深い活動が出来た事と、沢山の仲間が増えたことに感謝いたします。

震災から4ヶ月以上経過した現在も、現地の活動レポートを通じて状況は伝えられていますが、一歩ずつ復旧に向けて進んでいる場所や、逆に主を失った家の中は、家財などが震災当時の状態のまま残った家もあり、継続したボランティア活動の支援が必要と感じました。

今回の報告では、震災に負けずに前向きに取り組む現地の人たちとの関わりを伝えたいと思います。毎日の夕食を拠点近くの飲食店で班毎にとっており、そこで知り合った人たちです。

一人目は飲食店でアルバイトとして働く女性店員で、奨学金で学び、将来介護士を目指して頑張っていると話す姿と明るい笑顔から、元気をいただきました。

二人目は地元の経営者の方で、前職時代には労組の執行部経験もあるそうです。この方は作詞家で和太鼓もされています。メンバーの中に震災で4人の家族を失った高校生がいて、亡くなった彼の弟のために「青い鯉のぼりプロジェクト」を立ち上げ、全国から200余りの青い鯉のぼりを集めて大空に掲げ、復興支援のコンサートも行い、報道でも取り上げられた方でした。

三人目は、前記の作詞家の方と出会ったお店の店主で、大正15年生まれ的女性。この道50年以上のお店でしたが、震災で2階部分が使えなくなった為、お店を閉める決断をし、しばらくの間閉めていたそうです。しかし、常連さんからの続けてほしいという声や、私たちみたいに新しい客とも出会えるのでお店を再開されたそうです。笑い声が絶えない店内で「やっぱり商売っていいねー」というやさしい目からの涙が印象的でした。

四人目は、その作詞家の恩師にあたる年配の男性。ボランティアで来た事を話すと、「ほんとにありがとうございます」と力強く握手していただきました。

五人目は、地元でうどんの麺を作っている会社の経営者。なんと前職では組合執行委員長をされていたそうです。そのめぐり合いは偶然だとは思えなく、不思議な感じがしました。

その他にも、理髪店の店主や地元の名産「はっと汁」を注文より多めの量で出してくれた飲食店のご夫婦など、たくさんの方と出会い、話を聞き、感じ、体験する事ができました。

私たちがボランティア活動を通じ体験したことを多くの仲間へ伝え、被災地の産物を消費することを心がけ、支援の一助として取り組む活動を今後とも続けていこうと思います。

ボランティア活動は被災された方々に元気と笑顔をお届けしています。それ以上に私達に前向きな心と元気をいただきました。

本当に、どうもありがとうございました。



第15陣 宮城・美里チームのみなさん  
(22日・石巻で撮影)

第15陣 美里拠点 3班

ダイハツ労働組合連合会（ダイハツ販労本部） 高里 健

★「連合救援ボランティアレポート」では引き続き、ボランティア活動に参加された皆さんの声(感想、現地の方との交流の様子など)をお待ちしております。宛先は下記にお願いします。

## ボランティア活動人数 のべ3万人に到達

29日現在の連合救援ボランティア活動人数(3/31～)は、のべ人数で30,049人(派遣人数×活動日数)、実数で4,899人となりました。

【内訳】岩手：のべ11,312人(実数1,951人)  
宮城：のべ9,359人(実数1,510人)  
福島：のべ9,378人(実数1,438人)  
男性：のべ28,034人(実数4,547人) 女性：のべ2,015人(実数352人)

## 活動レポート

### 岩手

#### ●宮古拠点

【7/26】宮古市緑ヶ丘、黒田町で側溝からの泥出し作業、鍬ヶ崎小学校(避難所)の風呂およびトイレ清掃、仮設住宅集会所の運営支援を行う。

**現地から** 仮設住宅集会所(5ヶ所)の運営支援として、それぞれの集会所で、来訪者にお茶を提供し、話し相手となるなかで、避難されている方のニーズ把握に努めています。

### 宮城

#### ●美里拠点

【7/27】東松島市鳴瀬で側溝の泥出し・運搬作業を実施。

**現地から** 班ごとに、「草刈り」「側溝のフタ移動」「泥出し」「運搬」と役割を分担し、スムーズな作業に心がけました。

#### ●千厩拠点

【7/27】気仙沼市波路上(長磯)二本松で、前日に続き田んぼのガレキ撤去を行う予定だったが、雷雨の為ボランティアセンターと協議の上作業中止を決定。拠点に戻り、今後の活動に備えてロープワーク研修を実施(右写真)。「もやい結び」や「イングリッシュマンズループ」など、活動現場で役に立つ数種類の結び方を実習。メンバーは手のひらが赤くなるほど練習に力を入れていました。



### 福島

#### ●福島拠点

【7/27】相馬班は回収した写真の洗浄作業と仮設住宅への物資運搬、南相馬班は側溝の泥出し、新地班は民家の家財搬出、清掃作業を実施。

#### ●いわき拠点

【7/27】雨天のため作業中止。他拠点への資材転送作業を実施。



## = 現地拠点運営スタッフ 経験者の声 =

7月から、各地方連合会のみなさんも各拠点の運営スタッフとして現地で活躍しています。今回は、宮城・仙台拠点の運営に携わっていただいた連合石川・能登地協の山本事務局長から現地活動の感想をお寄せ頂きましたのでご紹介します。

### 連合救援ボランティア現地運営スタッフに派遣されて

連合救援ボランティア現地運営スタッフ派遣者として、7月14日から19日にかけて仙台ベースキャンプで主に第15陣のお世話をさせていただいた。折から仙台地方は猛暑に見舞われていた。ボランティア派遣は2回目となるが、今回は運営スタッフでの参加となるので戸惑いや不安も多いと予想された。予想は見事に的中するところとなった。

現地での受け入れ準備から始まった一連の業務、日曜日の夕方に到着された第15陣の皆さんの受け入れ式、オリエンテーション、作業アイテムの準備等々は正直なところ大変だった。それでも、何よりも心強かったのは班長さんをはじめ皆さんの協力的な言動であった。自信と勇気を持ちながら自身を奮い立たせた。翌日から始まった作業では、連合宮城の地協事務局長さんのご指示を頂きながらスムーズに作業に入れた。ただ、容赦なく照りつける日差しは我々の敵となった。特筆すべきは、班長さんのもと各班員の皆さんは、数日前に合流されたとはとても思えないチームワークで作業されたことである。この事は、今回に限られたことではなく、連合救援ボランティアとして派遣された全ての方々当てはまるのではないだろうか。

ベースキャンプや作業現場では、努めて皆さんとコミュニケーションを図ることとした。嬉しかったことの一つに、誰からともなく、笑顔で声をかけていただいたことだ。また班長会議での積極的で前向きな発言には助けられた。

連合宮城のご配慮で被災現地の視察を入れて頂いた。バスの車窓から見るその風景には、参加された皆さんそれぞれに感慨があろう。短い案内のアナウンスで、とっさに出た言葉を紹介したい。「皆さんの目と心で見えていただきたい」それに尽きる。

第15陣の皆さんとお別れする日が近づいた。短い期間ではあったが、貴重な体験をさせて頂いた。最後の班長会議の挨拶で言葉に詰まり、大粒の涙がほほを流れた。最後まで皆さんにご迷惑をお掛けした。



連合北陸ブロック・連合石川能登地協事務局長

山本 進

## ボランティア第 17 陣 活動開始

派遣者は実数ベースで 5,000 人を超える



7月31日に各拠点へ派遣された連合救援ボランティア第17陣122名は、各地での活動を開始しています。8月1日現在の派遣者数は、実数で5,020名、延べ活動日数(人数×日数)ベースでは30,170人となっています。今回から派遣地域は岩手、宮城の2県となり、岩手では、陸前高田市周辺の活動に集中するため新たに開設した、大東拠点(一関市)をベースに活動します。宮城では、仙台(仙台市周辺)、美里(石巻・東松島市周辺)、千厩(気仙沼市周辺)の各拠点での活動となっています。

## 福島での活動を終了

4 か月間でのべ約 9,400 人が活動

7月29日、福島県内での連合救援ボランティア活動が、4カ月にわたる期間の最終日を迎え、各拠点でそれぞれ最後の活動と締めくくりを行いました。

福島拠点は、相馬班、南相馬班、新地班に分かれて活動。相馬班は民家でウッドデッキの床はがしと泥出し作業、南相馬班は墓地敷地内のがれき撤去と除草作業、新地班は、民家の側溝清掃、畑となる予定の土地のがれき撤去作業などを行いました。新地のボランティアセンターでは、この日が最後となる連合チームのために炊き出しが行われました。その後拠点となった県労働福祉会館での解団式では、連合福島の佐藤副事務局長があいさつし、「連合ボランティア隊の献身的な仕事ぶりに対し、各自治体から感謝の言葉をもらっている。活動に一区切りをつけることになったが、引き続き連合福島を挙げて、福島への復旧・復興に取り組んでいく。この間、みなさんから多くの協力を頂いたことに感謝申し上げます」と、感謝と決意の言葉が述べられました。

いわき拠点の最終日は、いわきボランティアセンターの資材班業務、四倉地区の民宿で側溝清掃を行いました。

午後には、ボランティアセンターで、いわき市社会福祉協議会の強口<sup>こわぐち</sup>常務理事、連合本部の逢見副事務局長から、ボランティア隊のメンバーにこれまでの活動に対する感謝のあいさつがありました。

その後行われた解団式では、連合福島の浅川副事務局長、連合福島いわき地協の大越事務局長にも出席いただき、これまでの連合のボランティア活動に対する感謝の言葉をいただきました。参加者のみなさんからは、班ごとに一週間の活動を振り返り、「このメンバーでまた活動したい」などの発言がありました。

ボランティア隊は翌30日早朝にバスで各拠点を離れ、帰路につきました。

福島では、4カ月間でのべ9,378人(実数1,438名)が活動しました。大きな事故もなく、被災された方々のニーズに応えることができました。福島各拠点に参加されたすべてのみなさんのご努力とご協力に感謝申し上げます。



■(写真上) ボランティアセンターであいさつするいわき市社協・強口常務理事  
(写真下) ボランティア隊をねぎらう連合本部・逢見副事務局長

### 【福島県での連合救援ボランティア活動】

- 福島拠点 (3/31~7/30) : 相馬市、南相馬市、新地町周辺 3,987人 (625名)
- 会津拠点 (3/31~7/3) : 会津若松市、郡山市周辺 2,506人 (361名)
- いわき拠点 (3/31~7/30) : いわき市周辺 2,885人 (452名)

連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班

電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547 (非正規労働センター)

hiseiki@sv.rengo-net.or.jp (バックナンバー) <http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html>

# 連合救援ボランティアレポート

第 53 号  
2011 年 8 月 3 日

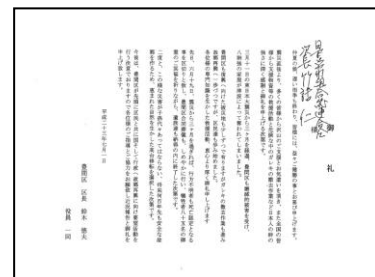
| 1

## 連合ボランティアへ 感謝の手紙届く 復興に向け歩む決意とともに

連合本部宛に、いわき市豊間区の区長さんからボランティア活動に対するお礼の手紙を頂きました。豊間区は、津波によって家屋の8割が失われる甚大な被害を受けた地区です。連合のボランティア隊は5月から7月にかけて約15回にわたりこの地区に入り、民家や側溝からの泥出し、がれき撤去などの活動を行ってきました。

頂いた手紙には、「支援物資等の救援活動、がれき撤去作業など日本人の絆の強さに深く感謝と御礼を申し上げる次第です」と感謝の言葉に続いて、震災から3カ月が経過した6月中旬に地区の合同葬儀を行い区切りとしたこと、将来にわたって安全な故郷とするため高台移転を選択したことなど、復興に向けて住民のみなさんが一歩ずつ歩み始めたことが報告されています。手紙の最後には、故郷再興に向けて行動していく決意が込められています。

ボランティア参加者の活動が現地復興の一助となったようです。お手紙に感謝するとともに、地域復興の歩みが着実に進むよう祈念いたします。



## 活動レポート

### 宮城

#### ●美里拠点

【8/1】仙台市宮城野区岡田地区で団地内の側溝からの泥あげ作業を実施。

#### ●千厩拠点

【7/27】気仙沼市長磯鳥小沢で、田んぼの中に漂着したがれきなどの撤去作業を実施（右写真）。

**現地から** ボランティア隊は横一列になって田んぼの中を前進しながら、切り株、冷蔵庫、陶器の破片などを回収しました。



### 紹介 二週刊新潮コラムに連合ボランティアが登場＝

「週刊新潮」8月4日号の連載コラムで、連合ボランティア活動が取り上げられています。このコラムは、第10陣の宮城・仙台チームで活動されたフード連合・サントリー労組の齊藤由香さんによる「窓際OLのすってんころりん日記」。詩人齊藤茂吉を祖父に、作家北杜夫を父に持ち、みずからも勤務のかたわらエッセイストとして活躍している齊藤さんが、「九日間のボランティア（その一）」と題して現地での体験などを記しています。連合組合員として、エッセイストとして、連合のボランティア活動をどのように見つめたのか。「その二」以降に注目です。





## ボランティアの経験 地域で共有

北海道・室蘭地域で発行されている「室蘭民報」（8月2日付）に、連合ボランティア隊に参加した連合北海道・室蘭地区連合のみなさんを紹介する記事が掲載されました（次頁参照）。記事では、被災地の厳しい現実を知ったメンバーの思いとともに、ボランティアを通じて労働運動の原点を見たとの声が紹介されており、連合のボランティア活動に参加したほかのみなさんも共感できるのではないかと思います。また、こうした記事を通じて、連合運動に対する地域の理解が広がる機会にもなったのではないのでしょうか。今後、職場や地域で、ボランティア活動の経験を語り伝える機会が広がることで、さらなる被災地支援につながることを期待されます。

### ■ボラセンブログでも紹介■

宮古市災害ボランティアセンターが運営するブログに、連合のボランティア隊への感謝を込めた記事が掲載されています。宮古拠点での連合チームの活動は先月末で終了しましたが、その活動の最終日となった先月29日、ボラセンのみなさんとの記念撮影や固く握手をする姿が載っています。活動に参加した連合チームのコメントも紹介されています。

☆宮古市災害ボランティアセンターのブログはこちら↓

<http://blog.goo.ne.jp/miyakovc/e/f683b4c8b2b34bcc1bcc66e2c824db7>



## 活動レポート

### 岩手

#### ●大東拠点

- 【8/1】大船渡市内の民家5軒で、床下からの泥出し、室内清掃、側溝からの泥出しを実施。NGOのチラシポスティング、弁当調理補助も行う。陸前高田市では、海岸沿いで流木などの撤去作業を実施。
- 【8/2】大船渡市内で雇用促進住宅の清掃、側溝の清掃、引っ越し作業の補助などを実施。陸前高田市では前日に続いて海岸沿いでの作業を実施。
- 【8/3】大船渡市内で、個人宅のがれき撤去、床下からの泥出し、納屋の片づけ作業、水産会社でのパレット清掃を実施。

### 宮城

#### ●仙台拠点

【8/3】仙台市宮城野区がもう さつこらくろの蒲生（雑子袋）地区で、側溝からの泥出し作業を実施。

#### ●美里拠点

【8/2】東松島市のJR陸前小野駅前にある団地で側溝からの泥出し作業を実施。

【8/3】東松島市のひま野蒜字下沼地区で、お寺の土砂撤去、除草作業を実施。

#### ●千厩拠点

【8/2】気仙沼市西八幡町で青果店の倉庫として使用されていた建物のがれき撤去作業を実施。

**現地から** 倉庫は津波と火災で被災したままの状況。階ごとに分担し、休憩確保に留意しながら作業を進めました。倉庫周囲の片づけまで実施でき、依頼主から感謝の言葉を頂きました。

連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班

電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547（非正規労働センター）

hiseiki@sv.rengo-net.or.jp（バックナンバー）<http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html>

■「室蘭民報」2011年8月2日

## 連合室蘭加盟の組合員

# 被災地へ続々



被災地で撮影した写真を見ながら語り合う  
日鋼室蘭労組の派遣メンバー

連合室蘭に加盟する労働組合から東日本大震災被災地への救援ボランティア派遣が相次いでいる。連合本部の呼び掛けや産別独自の取り組みなど形態はさまざまだが、労働運動で培った団結力、奉仕の精神を発揮して民家からの泥除去、がれき撤去などに奮闘している。

(山田晃司)

■原点  
日鋼室蘭労組は執行部 素中毒で全員亡くなった4人が連合チームとして「すよ」。わりきれないで5月18〜26日と6月11、19日、それぞれ入すつ和彦さん(44)は参加メンバー宮城県気仙沼市へ。小松バーの労苦をねぎらいつ真人さん(28)は「全てのつ総括した。1人では建物が津波で流されて跡でできないことも力を合わせ形もなかった」と衝撃をせねばできる。ボランティア語る。長田泰幸さん(34)は「IAに労働運動の原点を早く方向性を政策として見た思いです」

■感謝  
新日鉄室蘭労組からは執行委員の長達也さん(38)が産別の基幹労連の書記長の高野聖久さん(38)が現地で聞いた話を一員として5月22〜28日、宮城県塩釜市に赴いた。震災直後、民家床下からの泥

人が暖を取ろうと炭をお出しが狭くて大変。離島

## 団結力、奉仕の精神発揮

での家具搬出もきつかった。疲労と悪臭、暑さの闘いでした。そんな田辺雅博さん(55)は連合苦闘の日々だったが「家日、岩手県大船渡市の救援に参加。現地の連合ボランティアをしているのを見て感銘を受けた」。津波から走り帰って思うのは「普通でない車の中で親子が助けを求めているのが何となくの悩みなどは、被災者に比べれば小さなものなのだった」と誰が何を言えるだろう。

■凄惨  
連合室蘭の事務局長、また、家族全員が無事だったため「ほかの住民「自分ができることをしに申し訳ない」と、隣なれば」と連合の呼び手に引越していった日、岩手県釜石市へ。家の話も聞いた。報道さ日、重労働だったが、作業の数々に「悲惨とい業が終わるたび、家主がうよも凄惨。私たちが何度も頭を下げて礼を言えたいかねばと思つた。またまたやらなければいけないことがあして語りの責任を口にする。再び、1カ月でも行きたい」

連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班

電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547 (非正規労働センター)

hiseiki@sv.rengo-net.or.jp (バックナンバー) <http://www.ituc-rengo.or.jp/saigai/report.html>



## それぞれの立場で復興を支える 職場での頑張りとはボランティア支援

8月4日、陸前高田に入っている連合ボランティア隊のメンバーは、ちょうどこの日から仮設店舗による営業を開始した地元スーパーを訪れ、地域の復旧・復興に向けて職場で頑張る連合の仲間を激励しました。

このスーパーは、岩手県内を中心に店舗を展開している「マイヤ」で、職場の組合員はサービス・流通連合を通じて連合に加盟しています。3月11日の地震と大津波によって、陸前高田、大船渡、大槌町にある6店舗が全壊などの大きな被害を受けました。それ以降、マイヤでは出張販売などで地域の要望に対応してきましたが、食料品が購入しづらい状況が続いており、地域では店舗再開について強い要望が出されていました。こうした中で、今回、陸前高田市内での仮設店舗の開設にこぎつけました。

この日、仮店舗の開設の報を聞いたボランティア隊は、連合の仲間を激励するため、開設セレモニーが行われた店舗を訪問。マイヤ労組のみなさんからは「連合ボランティアありがとう」の横断幕で迎えていただくなど、逆にボランティア隊が励まされる展開に。職場とボランティア、それぞれの立場で頑張ろうと、お互いにエールを交換しました。

マイヤ労組の仲間をはじめ、連合の組合員は、職場の復旧・再建と地域の復興のため、それぞれの持ち場で日々奮闘しています。被災地をはじめとした職場での頑張りとは、全国から被災地を物心両面で支える取り組み、それぞれの立場で役割を發揮し、被災地復興につなげましょう！



■マイヤ労組のみなさんと共に。後ろは仮店舗。

## 活動レポート

### 岩手

#### ●大東拠点

【8/4】陸前高田市羽根穴地区の田んぼで、がれき集約や草刈り作業を実施。大船渡市では個人宅のがれき撤去、床下の泥出し、消石灰散布、屋内清掃を実施。

【8/5】陸前高田市では脇之浦漁港周辺のがれき撤去、大船渡市では個人宅のがれき撤去、床下の泥出し、消石灰散布、屋内清掃を実施。

**現地から** 陸前高田市内は、まだ復旧の手がつかない場所があり、足場やがれきに注意する必要があります。

### 宮城

#### ●美里拠点

【8/4-5】前日に続き、東松島市野蒜<sup>のびる</sup>字下沼地区で、お寺の土砂撤去、除草作業を実施。

#### ●千厩拠点

【8/5】2日に行った活動先での継続作業として、土砂の分別・撤去作業を行う。



つながる、ささえる、680万

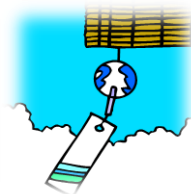
# 連合救援ボランティアレポート

第 56 号  
2011 年 8 月 10 日

| 1

## ボランティア第 18 陣メンバー 元気に活動開始!

8 月 7 日に出発した連合救援ボランティア第 18 陣のメンバー 119 名（岩手 73 名、宮城 46 名）は、8 日から各地で活動を開始しています。連日暑い日が続く中、ケガや熱中症の予防など、安全に十分注意しながら活動しています。以下、各地からの報告をお届けします。



### 活動レポート

#### 岩手

##### ●大東拠点

【8/8】陸前高田市では、広田町の寺付近での草刈り作業、大船渡市では、個人店舗の駐車場での整土作業、側溝の泥出し作業を実施。

#### 宮城

##### ●仙台拠点

【8/8】仙台市宮城野区蒲生（字南<sup>みなみしろ</sup>城道田）で、側溝からの泥出し作業を実施。

**現地から** 30℃を超える暑さとなり、熱中症防止のため休憩をこまめに入れながら作業しました。1 人あたり 4 本のペットボトルを持参していますが、それでも足りない人が出たため、弁当用の保冷剤の代わりに凍らせたペットボトルを入れることで、持参できる水の量を増やしています。

##### ●美里拠点

【8/8】石巻市北上町の水田で、がれき撤去作業を実施（右写真）。

**現地から** 木材、鉄、アスファルトなどを分別し、1ヶ所に集めました。20 人で約 1 ヘクタールの水田を 1 日で終了しました。気温は 28℃ほどでしたが、風があったこともあり比較的涼しく感じ、スムーズに作業を進めることができました。



##### ●千厩拠点

【8/8】気仙沼市魚市場近くにある 2 階建の事務所兼住宅で、ヘドロの搬出・貴重品搜索、住宅の食器洗い、タンスの洗浄、事務所器財の運び出しを実施。

**現地から** 気仙沼魚市場の周辺は地盤が沈下しており、満潮時には膝の高さまで海水が満ちてくる状況です。そのため満潮前に作業を終了せざるを得ません。翌日も引き続き作業を行う予定です。

#### 【連合救援ボランティア 活動人数（8/9 現在）】

●延べ人数 30,832 名（人数×日数 実派遣者数 5,156 名）  
 （内訳）岩手：延べ 11,773 名（実人数 2,112 名）  
 宮城：延べ 9,681 名（ " 1,606 名）  
 福島：延べ 9,378 名（ " 1,438 名）



## 再度確認しよう！ 安全対策

連合の救援ボランティア活動も派遣開始から 5 カ月半を迎えます。暦の上では立秋を過ぎたとはいえ、連日厳しい暑さが続いています。これまでのボランティアレポートや活動の手引きでもたびたびお知らせしていますが、ここで改めて、熱中症やケガの防止など、安全面でとくに必要な事項についてお知らせします。活動に参加される際には、事前の確認をお願いします。

### ●熱中症対策

気温が 30℃を超える日はまだまだ続きます。熱中症予防、さらには注意力低下によるケガを防ぐため、こまめな水分補給・休憩、冷却グッズの利用などを心がけましょう。活動前、体調がすぐれない場合は無理をせず活動を控えることも大切です。活動中は、お互いの体調への気配りを忘れずに。活動時間外も、十分な睡眠をとり、過度の飲酒を控えるよう注意して下さい。

### ●作業中の事故防止

- 踏み抜き・突き刺し：安全靴や安全中敷きは必ず使用すること。その上で、不用意にガレキを踏まないこと（安全中敷きを使用している場合でも靴の横から刺さった事例あり）。土の中の中にはガラスなどが含まれている可能性があるため、持ち方に注意。
- 重量物落下・挟まり：運搬作業時は必ず十分な人数で行い、声かけ・息合わせを行う。無理な姿勢にならないよう注意する。指挟みにも注意。
- 転倒防止：活動場所には滑りやすい場所やつまづきやすい場所があります。足元に注意するとともに、転倒時の頭部保護のためヘルメットを着用する。
- 通過車両に注意：側溝作業など、路上での活動にあたっては、通過車両に十分注意して作業しましょう。

### ●過度の日焼け

炎天下の大変な環境での作業が続きますが、日焼けにも十分注意してください。日焼け止めの使用（首筋、耳、鼻）、肌を長時間露出しない（ケガ防止の観点からも）、活動後の日焼け箇所の冷却、水分補給など、日焼けの影響を避ける注意が必要です。

### ●食中毒対策

弁当・食品・飲物は炎天下に放置せず、クーラーボックスなどに入れましょう。活動場所や拠点での食事前の手洗い・消毒を励行しましょう。活動場所によっては、ハエなど食中毒菌を媒介する虫が増加している地域があります。食べかけの食品や飲物を外に放置しないように気をつけましょう。

### ※保険証の携帯を！

万一、現地でケガや病気をして医療機関を受診する際、保険証を携帯していないために、手続きに手間取るケースが見られます。保険証の携行をお願いします。

その他 現地対策本部の指示に従って行動をお願いします



## ■ 連合ボランティア 民間では最大規模の派遣に

内閣官房震災ボランティア連携室によると、岩手、宮城、福島 の 3 県にある社会福祉協議会の災害ボランティアセンターを通じて活動したボランティアの人数は、7 月 24 日時点の集計で、3 県合わせて 595,300 人となっています（内訳：岩手 171,700 人、宮城 323,500 人、福島 100,200 人 全国社会福祉協議会集計）。

連合のボランティア隊も社協を通じて活動しており、この期間における連合ボランティア隊の活動人数は、3 県合わせて 28,660 人（内訳：岩手 10,762 人、宮城 8,815 人、福島 9,083 人）で、上記のボランティア参加者に占める割合は、全体では約 5%、福島県では 1 割近くが連合チームとなっています。

4 日、連合本部で行われた南雲・連合事務局長と辻元・総理大臣補佐官（災害ボランティア担当）の会談の中で、辻元補佐官から、連合が行っているボランティア派遣については民間による団体ボランティアとしては最大規模の派遣であるとの説明がなされるとともに、この間の取り組みに対する感謝が表明されました。

あわせて辻元補佐官から、政府として、ボランティアが参加しやすい環境整備に努めるとともに、行政とボランティアの役割分担のあり方や、被災地救援におけるボランティアの貢献についての検証に努めるとの見解が示されました。



■ 辻元総理補佐官と南雲連合事務局長による会談（4 日・連合本部。左手前：南雲事務局長右手前：辻元補佐官）

## ■ 「新潟福島豪雨」でもボランティア活動を開始 ～連合新潟

先月下旬に新潟県と福島県を中心に襲った集中豪雨によって、多くの家屋が床上・床下浸水するなどの被害を受け、復旧に向けた活動が始まっています。また、ボランティア活動についても、三条市や五泉市などで災害ボランティアセンターが立ちあがっています。

連合新潟では、東日本大震災における福島県でのボランティア活動に続き、県内構成組織を中心にボランティア態勢をつくり、三条市など被害の多い地域の災害ボランティアセンターと連携して活動しています。連合本部も、連合新潟に対して、東日本大震災の災害救援ボランティアで使用したヘルメットやゴーグルなどの器材を送るなど、その活動をサポートしています。



## ボランティアのバトン 第19陣へ

連合救援ボランティア・第 18 陣のメンバーは 12 日に東京に戻り、代わって第 19 陣の 114 名（岩手 72 名、宮城 42 名）が 15 日に現地に到着しています。被災地では、東日本大震災で亡くなった方々の新盆を迎えることや、お盆の期間中ボランティアセンターの業務が一時休止となることを考慮し、通常のボランティア派遣とは異なる日程となっています。第 19 陣のメンバーは、16 日からそれぞれの拠点で活動を開始しています（なお、岩手・大東拠点では、16 日がボランティアセンター休止のため、被災地の状況を学ぶワークショップや被災地視察を行いました）。

### 活動レポート



#### 岩手

##### ●大東拠点

【8/10】陸前高田市では、広田町の田んぼで側溝の泥出し、がれき処理、草刈り作業などを実施。大船渡市では、大船渡町茶屋前で側溝の泥出し作業を実施。

【8/11】陸前高田市では、広田町で仮設トイレの設置作業を実施。大船渡市では、前日と同じ場所で側溝の泥出し作業を実施。

#### 宮城

##### ●仙台拠点

【8/16】仙台市宮城野岡田地区で、側溝からの泥出し作業を実施。

**現地から** 第 19 陣では、4 日間かけて約 300m の区間での泥出し作業を行います。作業場所にテントを張り、3 班に分かれての作業となります。初日となったこの日は非常に暑い中での作業でしたが、冷却グッズやこまめな休憩・水分補給を心がけました。休憩時に町内会の役員の方のお宅に招かれ、飲物の差し入れを頂き、被災時の写真などを拝見しながら当時の状況を伺いました。

##### ●美里拠点

【8/9-10】石巻市北上町の水田（広さ約 5 ヘクタール）で、前日に続いて土砂に埋もれた鉄板や電線、絨毯、毛布、コンクリート片、アスファルト片、流木などの撤去作業を実施。

【8/11】石巻市鮎川給分浜<sup>きゅうせんはま</sup>で、個人宅での家財等の搬出・分別作業を実施。

**現地から** 牡鹿半島は、交通アクセスの関係でボランティアが不足しているようです。震災発生から 5 カ月の節目にあたることから、地震発生時刻に全員で黙とうを捧げました。

【8/16】石巻市鮎川小浜で、住宅地の側溝での泥出し作業を実施。

**現地から** 今日作業した側溝は、深さがあるうえ、土砂にコンクリート片など様々なものが含まれていて、気温も 35℃にのぼる猛烈な暑さとなり、難度の高い作業となりました。

##### ●千厩拠点

【8/9】前日に続き、気仙沼市魚市場近くにある事務所兼住宅で、ヘドロの搬出・貴重品搜索、住宅の食器洗い、タンスの洗浄、事務所器財の運び出しを実施。

**現地から** 今日の作業ではパソコン 4 台の搜索を依頼され、うち 2 台を発見し依頼主の方から感謝されました。前日同様、満潮前に作業を終了しました。依頼主の方からは「仕事の依頼はあるが、将来が見

えない。しかし頑張るしかない」という言葉が心に残りました。作業の終わりにメンバーは、「復興したら是非気仙沼に来てください」と言って下さった依頼主の方と一緒に写真に収まりました。

【8/10】気仙沼市階上で、水田のため池に流れ込んだ木片、タイヤなどのがれき撤去作業を実施。

【8/11】気仙沼市魚市場近くにある個人宅で、床下からの泥出し作業を実施。

【8/16】気仙沼市小々汐で、個人宅での床下からの泥出し、食器洗浄などの作業を実施。



■田んぼでの漂流物撤去作業（9日・石巻市）



■住宅地での泥出し作業（10日・仙台市宮城野区）



■津波が押し寄せた田んぼにも今は草が生い茂る。その中で漂流物を探し出す（10日・石巻市）

## 写真で見る 各地の活動



■津波に浸かった冷蔵庫を運び出す（11日・石巻市）



■腰まである深さの側溝から泥を出す（16日・石巻市）



■側溝の泥出し作業と積み上がる土のう（16日・仙台市宮城野区）

### 【連合救援ボランティア 活動人数（8/17現在）】

●延べ人数 31,223名（人数×日数 実派遣者数 5,270名）

（内訳）岩手：延べ 11,988名（実人数 2,184名）

宮城：延べ 9,857名（ " 1,648名）

福島（派遣終了）：延べ 9,378名（ " 1,438名）



# 連合救援ボランティアレポート

第 59 号  
2011 年 8 月 24 日

| 1

## 第20陣メンバー 各地で活動中

連合救援ボランティアは、現在、8月21日に現地入りした第20陣のメンバー135名が活動を続けています。現地では雨模様のあいにくの天気が続いていますが、限られた時間の中で各地で活動を展開しています。

### 活動レポート



#### 岩手

##### ●大東拠点

【8/22】大船渡市では、側溝からの泥・石の撤去作業、陸前高田市では水田および住宅跡地のがれき撤去、除草作業を実施。

#### 宮城

##### ●仙台拠点

【8/17-19】仙台市宮城野区岡田地区で側溝からの泥出し作業を実施。

**現地から** 最終日に、目標としていた用水との接続点までの区間 309m の水路が開通し、溜まっていた水が流れ出しました。風があり体感温度は比較的過ごしやすかった一方、30℃前後の気温と疲労の重なりもあり、熱中症防止のため、こまめな休憩を行いながらの作業でした。近隣の方のお宅には、「休憩に寄って下さい」との看板が掲げてあり、大変ありがたく感じました。

【8/23】仙台市宮城野区岡田地区で側溝からの泥出し作業を実施。

##### ●美里拠点

【8/17-19】引き続き、石巻市鮎川小湊浜で側溝の清掃作業を実施。

【8/22-23】第19陣からの継続で、石巻市鮎川小湊浜で側溝の清掃作業を実施。

##### ●千厩拠点

【8/17-19】気仙沼魚市場前の住宅で屋内のヘドロ、がれきの除去作業、家具の搬出・洗浄作業を実施。

**現地から** 第18陣でも作業に訪れたところで、潮が引く時間帯しか作業ができず、雨による浸水もあって作業場所に入ることに苦勞しました。ヘドロも水分を含んで重いため、全員汗だくになりながらの作業でした。最終日、作業終了直後に地震が発生。津波注意報が発令され、ただちにボランティアセンターに全員が退避しました。通常から警報などが出されたときの行動確認が必要です。

【8/22】雨天の為、活動中止。

【8/23】気仙沼市波路上地区で畑のがれき、農業用ポンプ、電柱の移動・撤去、除草作業を実施（下写真）。



■全員で木片、ガラス片などを回収



■耕作の邪魔にならないよう、電柱を畑の端に寄せる

連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班

電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547（非正規労働センター）

hiseiki@sv.rengo-net.or.jp（バックナンバー）<http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html>